

第23期新宿区社会教育委員の会議 第7回定例会 議事要旨

日時 令和5年10月20日（金）
場所 オンライン形式
出席者 矢口議長、中村副議長、藤後委員、遠藤委員、田中委員、酒井委員、鶴巻委員、
石橋委員、伊藤委員
事務局 教育支援課長、事務局

○議長 定刻になりましたので始めさせていただきます。

お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。

最初に、今回は体調を壊してお休みしてしまい、申し訳ございませんでした。それでは、事務局から最初に前回の振り返り、配付資料の確認をしていただきたいと思います。よろしくお願います。

○事務局 初めに、本会議の成立についてです。

本日は委員10名中9名ご出席いただいております。新宿区社会教育委員会議規則第4条の規定により、会議が成立していることをご報告します。

今回の配付資料は、報告書案です。報告書について、前回の定例会でいただいたご意見をそれぞれ検討しました。主な部分の検討内容とその結果、及び修正点について説明いたします。

まず、1ページの（1）の①学生ボランティア等の活用の3段落「したがって」の後を「Z o o mなどによる支援」から「Z o o mやT e a m sなどのウェブ会議ツールによる支援」としました。

次に3ページ、②地域との連携の2行目から4行目で、学校名を具体的に入れる提案がありましたが、特定の学校名は入れないこととしました。全ての学校とする案もありましたが、各学校によって地域協働学校の活動が異なり、様々な取組があるので、この例について全ての学校と明記することはできないため、修正せずにこのままとさせていただきます。

同じく3ページの④家庭教育ワークシートの活用の3行目を、いただいたご意見に基づいて、「ワーク」から「グループワーク」としています。

次に4ページです。Ⅱ 多様な経験・体験を通した子どもの成長を促すための支援の2行目に、前回いただいたご意見に基づいて非認知能力についての説明を加えました。

次に7ページのⅢ 心理的負担を軽減するための支援について、前回の定例会で外国籍や特別支援教育の視点を入れる提案がありましたので、3行目の「また」から一文加えています。

同じく7ページの（1）①学校における相談の機会の最終文に相談方法の例を入れるご提案がありましたので、相談ボックスの設置やオンラインツールの使用について加えました。

次に8ページです。③地域人材の活用の5行目です。経験豊富な相談員として、民生委員・児童委員、主任児童委員について加えるご意見があったので、一文加えています。

次に同じく8ページから9ページにかけて、④就学時の連携と関係機関の情報共有の中で、1段落の例として2段落目を入れていましたが、この流れが伝わりづらかったと思われるので、2段落目の最初に接続詞「例えば」と入れました。

それから、10ページの③ICTを活用した支援の可能性について、オンラインの活用とい

うテーマでしたが、前回の定例会が終わった後にICTのほうが活用が広がるということで提案の連絡をいただいたので、ICTを活用した支援の可能性に修正しました。

定例会の結果検討したことは以上ですが、教育委員の会議にかけたり、関係部署へ確認を取ったりした結果、修正した部分についてもお伝えします。

まず、1ページ目の最終行から2ページ目、②放課後子どもひろばの活用について、所管課の子ども家庭支援課に確認して、内容を一部修正しています。

そして最後に目次のページについて、今まで資料編の各資料のページ数も入れていましたが、目次のページには入れず、資料編の開始である11ページに各資料のページ数を入れるようにしました。

○議長 ありがとうございます。

それでは、最初に報告書ですが、全体を通してお気づきの点ございますか。

では、内容了解ということで進めます。

ただ、もし誤字とか語句訂正、特に人の名前とか学校名とか、間違った場合があったら、メールで連絡して了解いただくという形でもいいと思いますので、その点は付言させていただきます。

今期の会はこれで最後になりますけれども、毎回楽しみで、充実した会議になったと思います。ありがとうございます。

では順番に一言いただきたいと思います。

○委員 まず、参加させていただいて、どうもありがとうございました。いろいろ勉強になりました。

今回の3つの視点ということで、低学年を対象とした学習面や体験、そして心理的負担というところ、本当にどれも重要なテーマで、これを多角的に検討させていただいたという充実感があります。

それと、私自身に関わらせていただいている家庭教育ワークシートもこの報告書の中に盛り込ませていただきました。家庭教育ワークシートを実際にどう生かしていくかということ、社会教育委員の会議でも検討し、かつ、家庭教育ワークシートの討議会でも検討しており、これらが両輪となって進んでいるのを実感しておりますので、ぜひ今回話し合ったことを今後も生かしていきたいと思います。

最後にご提案ですが、いつも他の委員からご指摘いただいていたように、やはり新宿区の現状に基づいた検討の内容というのがすごく大切だと思っています。ですから、現場の先生方や、いろいろな活動をされている方、そして子育ての当事者の皆様方の声を聞かせていただくのと同時に、施策評価の結果、例えば、今、具体的にどんな施策がなされていて、行政のほうでどういうところが課題となっているのかというような資料も併せてご提示いただくと、より深みのある議論ができるかなと思いました。

いずれにしても、本当に勉強になりました。どうもありがとうございます。

○議長 ありがとうございます。

それでは、次の委員、いかがでしょうか。

○委員 本当に2年間ありがとうございました。とても貴重な機会をいただいたと思っております。

私自身も、ICTを活用して、新しい視点で皆さんに提供できるものはないかと常に探りながら、この会にも参加させていただいていました。一方、皆さん、様々な立場からたくさんのご意見や視点ということをいただいて、私自身とても勉強になったと思っています。

また、話し合いの中で何度も出てきましたが、例えば非認知能力等、子育てに大切ないろんなことが提案されつつも、子育てイベントなどにだんだん参加する人や協力する人が保護者の中から減っていく状況もあり、改善されない難しい問題も幾つかあって、そこに画期的な切り込みが必要なかなと感じるところもありました。これは、新宿区だけではなく、様々な地域で同じようなテーマで悩まれている問題なので、目玉になるような解決策があればよいのにといつも思っています。ただ、今回、話を伺っている中で、私自身の個人的な活動においても、様々な人に子育てに関わってもらえるよう、オンラインも含め、いろんな人たちに流布していく必要があると、非常に強く感じました。

そして、このような会の内容がもっとオープンになりいろんな方に興味をもってもらえるといいなと、また、この報告書などもたくさんの人に読んでいただけるといいなということ、非常に強く思います。

今回は本当にどうもありがとうございました。

○議長 ありがとうございました。

それでは、次の委員、お願いします。

○委員 お疲れさまです。

私は、このテーマを考えたときに、小学生という大きなくくりの中で、低学年に十分フォーカスできていないんじゃないかなと思います。というのは、本来、低学年のうちにいろいろと身につけなければならないものが、今、コロナ禍のような状況があつて身につけにくい、そういった時期を過ごしてしまった子どもたちに、どう手当てなり策を与えるのかということがとても大事なんだろうなというイメージで考えていたんですが、低学年の子どもたちを社会で受け入れるということは、実はあまりないんですね。私たちが地域でいろいろ行事を行っても、保護者と一緒でないと地域の人たちは受け入れられないという状況があつて、その点、今回のテーマで多様な支援といっても、もう少し上の学年には多様な支援があるけれど、低学年の児童、保護者に対しての支援というのは、もう少し明確なものを考えておく必要があると感じました。

この秋に四谷で25年やっている四谷大好き祭りというお祭りがありました。これに四谷子ども園の年長、年少の50人の子どもたちに歌を歌ってもらうというイベントのステージをやったんですが、そのときに、物すごい数の保護者が応援に来ていました。そういう保護者と子どもが参加するというのは、イベントである意味で仕掛けやすかったけれども、今回は私、こういう会議に出たので、今までは自立的に動ける子どもたちをボランティアとして扱うことはやっていたんですが、幼稚園、それから小学校低学年という子どもたちをターゲットにしたところについては、今回のそのお祭りで、親子子どもが参加する行事もある意味で必要性はあり、自分なりにこの機会を得たので、実験的に実施することができました。

地域社会に、もう少し低学年の親子が参加できるような行事については、何かしらこれから提案が生まれていくことがいいたらと思います。ただ、もうコロナの時代は終わっているので、今の低学年の子どもたちがその影響を受けているというよりは、むしろもう少し上の学年

になっている子どもだという議論になりますので、今回は4年生から6年生のボランティアを親子で募集して、7名ぐらいボランティアをやってもらいました。イベントで司会をやったりとか、チラシを配る広報をやったり、お掃除をやったりという、ボランティアの体験ですが、親と子で参加すること自体に意味があるとそこでも感じました。この会議を通して、私自身、地域社会で実践をしているところです。

○議長 どうもありがとうございました。

それでは、次の委員、お願いいたします。

○委員 今、中学校を担当していますが、小学校を振り返って、幼児期はそこからのつながりがものすごく重要です。特に幼児期の、非認知能力でいかに内容ある体験をさせてあげるか、親子と地域の方々と、内容ある会話をいかにしていくかということが、すごく求められていると思います。だから、他の委員が言ったように、もう少しフォーカスしてもいいのではないかと思います。

子どもの居場所づくり事業を平成16年から3年間、文部科学省から受けて実施していましたが、私はその新宿全体の責任者でした。そのときに、子どもの居場所をどうつくるかということについて、子どもたちや保護者にアンケートを取りました。その結果、やはり小学校低学年の居場所がないということでした。3年、4年になると地域に1人出るし、いろいろなところに習い事や塾があります。小学校低学年は、お子さんも保護者も居場所がほしいということでした。うちの地域は放課後に子どもたちの、特に低学年の居場所を小学校につくりました。中学校もそれに倣って放課後につくりましたが、やはりニーズがあれば、それだけ参加人数が多いです。大体1年間で2,000人ぐらいの延べ人数の参加でした。また、それに関わった保護者や地域の方も、年間に600から700人でした。やはり私たちが捉えなければいけないのは、何が支援できるかというよりも、ニーズをきちんと把握して、それに対する支援が必要なのかと思います。

今回、居場所に関連したテーマでしたが、健常な子どもたちばかりではなく、実際には障害を持った子どもたち、不登校の子どもたちがとても増えています。従って、そういう子どもたちも含めた、それぞれの発達段階に応じた居場所づくり、支援を少し考えていけたらいいのではないかと思います。

地域協働学校運営協議会は四谷中が指定第1号でかなり早く、最後の学校は平成29年に指定されました。うちは18年から始まっていて、少し時がたち過ぎていますが、現在文部科学省で支援から次の段階として、地域と学校の連携・協働という言葉があります。だから、次のステージはぜひ、地域と学校の連携・協働という言葉で進めていってほしいと思います。

○議長 ありがとうございました。

副議長、お願いします。

○副議長 皆様、どうもありがとうございました。私もこの会に参加させていただきまして、皆様のご意見等をお伺いして、大変勉強させていただきました。これを基に、自分たちでできることを地域でこれからも進めていきたいと思っております。

先ほど申し上げればよかったです。この報告書の9ページについて伺います。9ページの(2)①ネットワークの重要性というところです。

今回もう一度読み直していましたが、この部分がどうかというところがございました。2段

落目ですが、新宿子育てメッセは子育て支援の活動をしている団体が集まる見本市のようなイベントでというところで、どのようなイベントかというのをもう少し入れるといいと思いました。そして4行目の最後のほうに、実行委員に入って横のつながりがさらに広がることを期待しますとありますが、実行委員だけになってしまうので、実行委員に入ったり、イベントに参加して、横のつながりがさらに広がることを期待しますというように、もう少し広い意味で持っていたらどうかと思いました。

○議長 この部分については、ここに関わっていらっしゃる委員の方、いかがですか。

○委員 見本市のようなところに関しては、私に関わっているからこの文章でも分かるかなと思ってしまっていたのですが、言いたいことや内容は、こういう活動をしている団体が新宿区にはあり、そこに行けば分かりますよという意味での見本市なので、分かりやすければ、そのほうがいいと思います。

また、実行委員に入って横のつながりがさらに広がることというところは、もともとの文章の意味では、この団体同士の横のつながりがと思っていました。団体同士という意味での一文であるとしたら、実行委員に入っつながることが実際のイメージですが、来た人も、利用者の親も含めての横のつながりという意味であれば、先ほどご指摘いただいたように、イベントを通じてという文も入れたほうが、広い意味にはなるのかと思いました。

○副議長 後で事務局と関係する委員とでお話ししていただいて、決めていただいてもいいです。

一応子育てメッセというので、子育てに関することだと受け取れますが、一般の方というか、これを見る方にとって、この見本市というものを少し具体化したほうがいいのかと思いました。

○教育支援課長 このイベントのチラシにも記載があると思うので、資料としてその様なものをつけることや、イベント当日は、子どもたちが参加できる楽しいことがそれぞれのブースであるので、そういったことを加えることを検討します。後段の部分については、確かに団体同士がということなので、その辺りもこのままだったり、直すところがあったりするのかわかるところで、ここの部分については、事務局とやり取りしながらお任せいただいて修正していくという方向で、皆さんにご了承いただければと思います。いかがでしょうか。

○議長 それでは教育支援課長からお話があったように、それを分かっている当事者間で調整していただいて、私がそれを拝見して、この会議の後になりますけれども委員の方々に変更内容を伝え最終決定するというところでよろしいでしょうか。

それではそのような形で、この部分については進めたいと思います。

次の委員、お願いいたします。

○委員 今期は参加させていただき、本当にありがとうございました。新宿区内でずっと子育てしていますが、自分自身知らないこともありました。本当にいろいろなことをやっているの、知らない保護者も多いのかなと思います。またその支援が、必要な親子に情報が行くのはもちろんですが、その支援が実際必要でない保護者も、この様なことをやっているということを知るとは、本当に重要であると実感しました。

私はこの会に参加させていただいて、とても勉強することができたので、ほかの機会でももっといろいろな意見がある保護者もたくさんいらっしゃると思います。何かそういう支援ができる場や、情報の収集、交流ではありませんが、意見交換ができる場がもっとオープンにあればいいとも感じました。

○議長 どうもありがとうございました。

次の委員、お願いいたします。

○委員 今回参加させていただいて、とてもたくさんの施策や関わっていらっしゃる方がいるというのが分かりました。

先ほどの委員もおっしゃったように、今までいろいろあった施策を振り返り、また、評価などどうだったんだろうということがとても気になりました。コロナ禍も経て、どんどん状況も変わっていく中、新しいことを提案することも含め、皆さんの意見をとても楽しく拝聴していましたが、前にあった施策の結果は一体どの様になったんだろうということがとても気になりまして、そのような資料を読みながら、先に進めていけたらよかったですと思っています。

どうもありがとうございました。

○議長 それでは、最後のご指名ということになってしまいましたが、次の委員、お願いします。

○委員 普段、私は中学生という、今回のテーマに比べたら、少し年齢層の高いところの子どもたちと一緒に生活していますので、会として、自分がここにどの様にお役に立てたのかなと思うと、反省も多々あります。ただ、小学校低学年、それから学童前、小学校入学前の子どもたち、保護者に対して、こんなに手厚い支援やいろいろなことをいろいろな形で考えていらっしゃるということで、本当に勉強になったと思っています。

今回、この冊子で報告書としてまとめた内容が、社会的な制度として活用されることを願うと同時に、これだけの支援があるということ、肝心の子育ての保護者や、当事者の方たちがどこまでご存じなのかということも、もう一つの大きなポイントとして大事ななことかと思っています。

本当に勉強になりました。ありがとうございました。

○議長 では、最後に私のほうでお話します。実は前にもお伝えしたかもしれませんが、今、大学では、社会教育主事、社会教育士という資格がありますが、それに向けた実習の準備をしているところです。学生とガイダンスを含めてやり取りして、この11月、12月から来年の3月にかけて、ここでも委員をお願いしている方、ご担当されている方もいますけれども、新宿区の図書館の分館的なところが多いと思いますが子どもの読書に関わるイベントや、いろいろな学生が、将来の教育、社会教育に関わりたくて、その実習を行います。また、今年予定されているのは、新宿区の外苑前にある日本青年館という建物がありますが、日本青年館は実は歴史をたどっていくと、日本の青少年教育の歴史そのものなんです。

明治天皇が崩御されて、明治神宮が明治の記念ということで造られて、その事業を記念するために、施設としては信濃町にある絵画館の他に、国立競技場も秩父宮ラグビー場も、最近になるとテニスやいろんなものがありますが、まさに日本の子ども、若者が健全に成長するためのメモリアルとして、日本青年館が造られました。

30年以上前には、委員の方々のご存じかもしれませんが、東京ラブストーリーというドラマがありました。我々ちょうど、その頃そこで仕事をしていましたが、ドラマのシーンに日本青年館の屋上が使われていました。そこに行きたいという学生が多く、新宿区はこの様ないろいろなものがあるということを知り、私も新宿って、基本的にそれほど住民が見えない町かと思っていましたが、何よりここに集まっているさまざまな皆様方がまさに地元でいろいろな活動をする住民として、生活者として、あるいはお父さん、お母さんとして果たされているネッ

トワークがこんなにあるんだということはいろいろな話を伺う中で思っていました。

学生たちは、青少年教育もそうですが新宿で仕事をし、活動しているので、もしかすると皆さんとまたお会いすることもあると思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、事務局から事務連絡をお願いします。

○事務局 事務連絡の前に、教育支援課長から挨拶があります。

○教育支援課長 皆様には、この報告書の作成に携わっていただくとともに、大変いいものをつくっていただいて感謝しております。案の段階で、区の管理職、それから教育委員のメンバー等々にも見せて、とてもいいものができたと言われております。これから先、日程のとおり、教育委員会に提出し、それから、区議会にも報告を持っていきたいと思っています。

先ほど委員から、委員会の進め方の提案などございました。区の施策としてどの様なことをやっていますという形で、最初に資料を送っていますが、会議を進める中で、少しこちらが説明をして、例えば校長先生等で、こういうところに課題があったりするというようなことの見えをもらい、そして、皆様に議論を進めていただくというような方法もあると思っています。そこは、次期の議論を進める中で、取り上げながらやっていけたらいいと思っております。

皆様、2年間にわたり議論いただきまして、本当にありがとうございました。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

○事務局 (事務連絡)

○議長 最後に、副議長をお願いします。

○副議長 今年の夏は真夏日が90日にも及びましたが、ようやく秋らしい日が戻ってまいりました。いつも戸山公園のお話をするんですが、今日自転車で走ってくると、あちらこちらからキンモクセイのとってもいい香りがして、ここまで来る間に楽しむことができました。

皆様には約2年間にわたり、小学校低学年を対象とした多様な支援の充実ということで、小委員会も含め、10回の会議にご参加いただき、たくさんのご意見をいただいて、このように案がまとまり、本当によかったと思っております。皆さんの博識のあるご意見等をお伺いして、新宿の子どもたちが心身ともに豊かに育っていくことを願いつつ、皆様のご苦勞に感謝申し上げます。閉会とさせていただきます。

本当にありがとうございました。